

「くよくよしたってしょうがないよ」

—評価表現を伴う「テモ/タッテ」構文の意味と機能—

蓮沼 昭子 (創価大学)

hasunuma415@gmail.com

【要約】

「くよくよしてもしょうがない」「彼に言っても無駄だ」「川はいつ氾濫してもおかしくない」などは、逆接条件形式の「テモ」の後に評価表現が続き、行為実行・事態実現の無効性や当然性判断などを表す複合述語表現である。これらは日常会話やドラマ・ニュース報道などで、かなり頻繁に耳にする表現だが、その否定的・消極的ニュアンスのゆえか、これまで日本語教科書や辞書・参考書で正面から取り上げられることがなかった。本研究では上記のような例を含め、「テモ」の複合述語表現全体の分類枠組みを提示し、その主要なものに対し、統語・意味・語用論的特性の記述と分析を行った。

1. はじめに

Bob Dylan の初期の作品に “Don’t think twice, it’s all right” という名曲がある。そのタイトルの和訳は「くよくよするなよ」が定訳になっていると思われるが、冒頭の歌詞の “It ain’t no use to sit and wonder why, babe” には多様な訳が存在する。「くよくよしてもはじまらない、これでいいんだ」(片桐ユズル訳)、「しゃがみこんで『なぜだろうか』と考え込んだって仕方ないさ」(山田稔明訳)、「座りながら考え込んだってどうにもなりゃしないよ、ベイビー」(Lyric List)などは、その中のほんの一部である。

本稿は、上記の訳に現れた「くよくよしてもはじまらない」「考え込んだって仕方ない/どうにもなりゃしない」のような形で、「テモ/タッテ」が評価表現を伴い、特定の発話意図を表す表現として定型化した構文を「テモ/タッテ」構文と呼び、その意味・機能の特性の解明を目的とするものである。

「テモイイ」は、日本語教育では初級教科書でも取り上げられる基本的な文型で、その意味・用法についても、教師・学習者の双方で一定の共通理解が成立していると考えられる。しかしその一方で、「仕方ない/しょうがない」など、「テモ/タッテ」が否定的評価表現を伴う場合についてはほとんど解説がなく、これをテーマとする研究も管見の限り見受けられない。本稿はこうした現状認識に基づき、その分析・記述を目指すものである。以後の考察は「テモ」構文を中心に行い、「タッテ」との相違点については、最後の節で簡単に触れるに留める。

本稿の構成は以下の通りである。2節では先行研究を整理し、本稿の課題を明らかにする。3節ではコーパスから採取した例の用法分類とその解説を行う。4節では用法別の特徴を分析・考察し、5節で全体のまとめを行う。

2. 先行研究

「テモ/タッテ」構文を扱った先行研究としては、森田・松木 (1989)、高梨 (1995、2010)、グルー

プ・ジャマシイ (1998)、日本語記述文法研究会 (編) (2003、2008)、友松ほか (2010) などが挙げられる。そのほとんどは、「テモ/タッテ」が「いい/かまわない」など、肯定的評価表現を伴う場合の用法記述を行っているもので、「仕方がない/しようがない/意味がない」など、否定的評価表現を伴う場合は取り上げられていない。ここでは、「てもいい」の意味・用法の体系的記述を試みた、高梨 (2010) の研究を紹介しておきたい。

2. 1 高梨 (2010) 「てもいい」の意味

高梨 (2010) は、「てもいい」が述語の肯定形と否定形を受ける場合を分け、その意味を整理しているが、肯定形を受ける場合から紹介する。

高梨は、肯定形を受ける場合の「てもいい」の基本的意味を「当該事態が許容されることを表す」とし、その二次的意味を図 1 のように整理している。図では、①当該事態の制御可能性、②当該事態の実現性、③行為者の人称、を基準に、(a)～(d)のケースを分け、「てもいい」の二次的意味として、〈許可〉〈意向〉〈許容〉〈反事実〉(およびその下位分類の〈後悔〉〈不満〉)を挙げている。

		①当該事態の制御可能性	
		制御可能→〈当為判断〉	制御不可能
②当該事態の実現性	未実現	③行為者の人称 ┌ 聞き手→行為要求 └ 聞き手以外 話し手→〈意向〉 (a)	→〈許可〉 〈許容〉 (b)
	非実現 ↓ 〈反事実〉	③行為者の人称 ┌ 話し手→〈後悔〉 └ 話し手以外→〈不満〉 (c)	〈不満〉 (d)

図1 「てもいい」の二次的意味

用法の詳細は原典に譲るが、以下にそれぞれのケースの代表例を列挙しておく。

ケース(a)

- (1) 「あんたら、おっかなかったら、入ってもいいよ」(向田邦子「男眉」) 〈許可〉
 (2) 「(略)よかったら、夕食は私の方で何かこしらえてもいいわ」(林真理子「東京の女性」) 〈意向〉

ケース(b)

- (3) けれども私は、石橋の欄干に凭れ、花売りの親子を見た瞬間、「死んでもいいではないか」という

気持ちになった。(宮本輝『異国の窓から』) <許容>

ケース(c)

(4) ところが、(講演が) 終わって拍手があつて控室にもどつてくると、あと十五分ぐらい話していてもよかつたなと思つたりする。(山口瞳『酒呑みの自己弁護』) <反事実>

(5) 「ごめんね、こんな食事につきあわせちゃって」奈美江がすまなそうにいった。「園村君は、外で食べてきてもよかつたのに」(東野圭吾『白夜行』) <反事実>

ケース(d)

(6) パラリンピックで見た車いすはスポーティーで格好良かった。病気でなくても、ちょっと乗つてみたいな、と思わせるような子ども用のおしゃれな車いすがあつてもいいのに。(毎日新聞) <反事実>

2. 2 高梨 (2010) 「なくてもいい」の意味

述語の否定形を受ける場合である「なくてもいい」の基本的意味は、「当該事態が実現しないことが許容されることを表す」とされ、その二次的意味は、図1の4つのケースに対応させた形で、<否定の許可> <不必要> <反事実> (およびその下位分類の <後悔> <不満>) が挙げられている。「なくてもいい」の場合の図示は省略するが、以下にそれぞれのケースの代表例を挙げておく。

ケース(a)

(7) 「おいしくないんだつたら、無理して食べなくてもいいわよ」(丸内敏治「無の人」) <否定の許可>

ケース(b)

(8) 「会えなくてもいいから、毎日、電話してよ」(中島丈博「おこげ OKOGE」) <不必要>

ケース(c)

(9) 「どうしてそうやっていつも勝手に事を進めるかねえ」
「そんな言い方なくてもいいじゃない」(三谷幸喜『古畑任三郎(2)』) <反事実>

ケース(d)

(10) どんどん東京から文化が来て統一化されて。当時は復帰なんかなくてもよかつたと思つた。(毎日新聞) <反事実>

以上が高梨 (2010) の「てもいい」に関する研究の紹介である。ちなみに、日本語記述文法研究会 (編) (2003) では、「てもいい」の関連表現として「てもかまわない」「たつていい」が挙げられているが、「てもかまわない」は、後悔・不満、論理的可能性を表す場合には用いられない点、「たつていい」は論理的可能性を表しにくい点で、「てもいい」との相違があることが指摘されている。

結局、先行研究で取り上げられているのは、「いい」「かまわない」といった、許容的な評価表現が「テモ/タツテ」と結びつた場合に限られ、否定的評価表現が続く場合に関する研究は、グループ・ジャマシイ (1998) の「てもしかたがない」の項目記述を除くと、ほとんど行われていないという現状の存在が指摘できる¹。

¹ 会議での発表直後に、堀恵子氏より「機能別用例データベース『はごろも』」に「～たつてしょうがない」の例

「くよくよし {ても/たって} しょうがない」のような表現は、日本語母語話者の日常的な会話でしばしば耳にするものであり、日本語学習者にとっても、理解レベルでは知っておく価値がある表現ではないかと考える。本稿ではこれまで見落とされてきた「テモ/タッテ」構文を取り上げ、その意味・用法に対しいっそうきめ細かな分析・記述を行い、基礎研究の地盤の強化を目指したい。

3. 「テモ」構文の意味と用法

3. 1 用例採取の方法

用例の採取は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版」(BCCWJ-NT)の「出版・書籍」のレジスターの「文学」のジャンルを対象として行った。検索条件は以下の通りである。

①キー：[語彙素]が[て]、[品詞]の[中分類]が[接続助詞]

②後方共起条件：キーから1語、[語彙素]が[も]、[品詞]の[中分類]が[係助詞]

「ても」は多様な用法をもつが、上記の条件で検索した結果、1万件を超える例がヒットした(誤解析や重複を含む)が、後続表現の形式や意味に基づき、目視で対象とする用例の絞り込みを行った。複合辞化した述語なのか、逆接条件なのかの違いは連続的で、形式だけでは区別が難しい場合があるが、連続性をもつ例については別立てにして残し、再度検討を行った。

3. 2 「テモ」構文の分類

「テモ」構文を、A)逆接条件か、B)定型表現かを基準に2種類に分け、そのうえで、B)に該当すると考えられるコーパスの例を、後続表現の形式や意味に基づき①～⑤に分類した。さらに、A)とB)の連続的性質が認められる場合をC)として別立てし⑥に一括した。その結果は以下の通りである。Pは「テモ」が受ける事態を表し、「P(ナク)」はPの述語に否定形が使用可能であることを表す。それが付されていない構文は、肯定形の述語のみが使用されることを表す。①～⑥のそれぞれの構文の型を[]内に示し、①～⑤には、用法の意味的特徴を表すラベルを付した²。分類項目の末尾の()内の数字は、取り上げる小節の番号である。

A) 逆接条件

PとQが因果的依存関係をもつ場合の用法で、順接条件「PナラバQ」のPが有効に働かないため、期待される結果Qが得られず、「Pテモ～Q」の形で、Qが否定される場合の用法である。

例：タクシーに乗れば間に合うよ ⇔ タクシーに乗っても間に合わないよ

B) 定型表現

後件に評価的意味をもつ述語を伴い、一定の定型化が見られる用法である。述語の意味に基づき以下のように分類した。

文の記載がある旨のコメントを頂戴した。「はごろも」のサイトを訪れてその事実を確認したが、用法・機能の記述に関しては、なお検討の余地があるという印象をもった。教育現場に生かすことができるレベルまで基礎研究を充実させる必要性を改めて痛感した次第である。参考サイト<<http://hgrm.jpn.org/db/index.html>>

² 本稿では、同一の語の異なる表記や活用形の代表を片仮名で表記し、実際の出現形を平仮名で表記する。他の文献からの引用の場合は、原典の表記に従う。なお、①～⑥の構文の表記は、視覚的に意味の区別が行いやすいよう、元が片仮名表記である場合も、漢字表記で代表させている場合がある。

- ①-1 肯定評価 [P(ナク)テモイイ]³
- ①-2 肯定評価 [P(ナク)テモ {ヨロシイ/大丈夫ダ/結構ダ/構ワナイ/問題ナイ/心配(ガ)ナイ}] (3.3)
- ② 自然・当然 [P(ナク)テモ {不思議(デ)ハナイ/オカシク(ハ)ナイ/当然ダ}] (3.4)
- ③ 無効・甘受 [P(ナク)テモ {仕様ガナイ/仕方(ガ)ナイ}] (3.5)
- ④ 無駄・無益 [Pテモ無駄ダ] (3.6)
- ⑤ 非関知 [Pテモ知ラナイ {ヨ/ゾ/ワ}] (3.7)

C) 逆接条件と定型表現の連続的性質をもつもの

- ⑥ その他 [Pテモ {始マラナイ/平気ダ}] など (3.8)

なお、上記の①～⑤の構文の分類にあたっては、Pでの述語の否定形使用の可否に加え、「テモ」における「モ」の省略の可否に対しても内省に基づき検討を行った。表1は、こうした観点に基づき各用法の特徴を整理したものである。各用法の機能については、次節以下で解説する。また、否定形使用の可否に差異が生じる理由については、4節で取り上げる。

表1 テモ構文の意味・用法と統語的特徴

用法	構文	Pでの述語否定形の使用	モの省略	機能	
				シテモ	シナクテモ
①肯定評価	テモイイ/大丈夫ダ 等	○	○	許可・許容	不必要
②自然・当然	テモ不思議デハナイ/当然ダ 等	○	○	当然判断	
③無効・甘受	テモ仕様ガナイ/仕方ガナイ	○	×	実現抑制	甘受
④無駄・無益	テモ無駄ダ	×	×	不実行指示	/
⑤非関知	テモ知ラナイヨ	×	×	警告	

○可能 ×不可能

ここで「モ」の省略の可否を左右する要因について、一言、補足しておきたい。「モ」の省略可否は、後続表現の評価的意味の影響を受けていることが窺われる。すなわち、肯定的・中立的評価を表す①②では、「モ」が省略可能なのに対し、否定的評価を表す③④⑤では、それが不可能である。その理由については、「モ」の機能的特性と関連づけた分析が必要であるが、それは今後の課題とし、ここでは現象の指摘に留める。

以下では、主文末で評価表現の非過去形が使用された例を中心に列举し、①～⑥の用法の意味・機能の特徴を解説する。なお、①-1の「テモイイ」については、高梨(2010)の紹介ですでに解説済みのため省略し、①-2～⑥に対し、この順で解説を行う。

3.3 ①-2 肯定評価

[Pテモ {ヨロシイ/大丈夫ダ/結構ダ/構ワナイ/問題ナイ/心配(ガ)ナイ}] という、肯定的評価表現

³ 「テモイイ」には、「モ」を伴わない形の類義表現の「テイイ」がある。本稿では、「モ」の省略が可能な構文に対しても、代表形として「テモ」を使用する。なお、「てもいい」と「ていい」の違いについては、高梨(1995, 2010)が詳しい。

を伴う構文で、①-1の「テモイイ」に準ずる用法をもつものである。Pに肯定形述語が使用される場合は、Pの実行・実現の〈許可・許容〉を、否定形が使用される場合は、Pの不実行・非実現(～P)に対する〈許可・許容〉、すなわち〈不必要〉を表す。「構ワナイ/問題ナイ/心配(ガ)ナイ」では、否定形が肯定評価を表すが、「差し支えない」もその類例に含めてよさそうである(例は省略)。以下に代表的な例を挙げ、各例文の末尾の〈 〉に、それぞれの意味・機能を示しておく。

- (1) 「一つお訊きしてもよろしいでしょうか」「なんだ？」(小川竜生『沸点』2001) 〈許可伺い〉
- (2) 「返事はすぐにしていただくなくてもよろしいですよ。七生さんにとっても、一生のことですし。(略)」(バーバラ片桐『秘密のラブレッスン』2004) 〈不必要〉
- (3) 「高校は義務教育じゃない。やめたければいつやめても結構ですよ。うちの学校でも、年に何人も退学者が出てますからな」(剛しいら『Bad boys!』2002) 〈許可〉
- (4) 「私の気持ちまであなたに教えてもらわなくても結構よ。自分でちゃんとわかってますから。(後略)」(カーラ・キャンディ/新井ひろみ(訳)『プリンセスにお手上げ』2001) 〈不必要〉
- (5) 「…お話ししても大丈夫ですか」 眠っている行弘に気付くと、乙彦は穏やかな声のトーンを更に低く落とした。(竹内照菜『ずっと、夢を見ている。』2004) 〈許可伺い〉
- (6) 「朝霧奏なら、神無月が抜けた穴を十分に補ってくれるだろう。心配しなくても大丈夫さ、静川光奈。我々の行き着く先にあるのは栄光だ」(岩田洋季『灰色のアイリス』2003) 〈不必要〉
- (7) 見積額はおよそ出来上がっていますので、そちらにファックスで送ってもかまいませんか。(最上鷹夫『過去からの声』2005) 〈許可伺い〉
- (8) 「(前略) 美しさとは見る人の主観の問題なの。たぶんハンサムもね。だから、あなたが自分と言うようなハンサムでなくてもかまいません。(後略)」(Marton, Sandra/小長光弘美(訳)『恋愛志願』2001) 〈不必要〉
- (9) 派手な破碎音が響く。グラスがティーカップが割れ、怒号が弾けた。普通の住宅ならパトカーが飛んでくるだろうが、ここは高い塀に囲まれた松濤の御屋敷だ。マイク・タイソンとボブ・サップが殴り合っても問題ない。(永瀬隼介『わたしが愛した愚か者』2005) 〈許容〉
- (10) 居間に残してきた、眠ったままの女性は気になったが、悪さをする可能性のある老人はぼくらの先頭を歩いている。盛られた睡眠薬も、一昨日の残り少量だったというから、放っておいても心配はないだろう。(霧舎巧『カレイドスコープ島』2004) 〈許容〉

ここで、上記①-2の諸例と①-1の「テモイイ」の相違点について簡単に指摘しておきたい。①-2に使用される評価述語は、それぞれ固有の語彙的・待遇の意味をもち、中立的な肯定評価を表す「イイ」には見られない使用上の制約をもつ。次の(11)(12)は、そのことを示す例である⁴。

- (11) 「今晚、お宅に伺っても { *結構/大丈夫/よろしい } ですか」(〈許可伺い〉の意図で)
- (12) ??「ちょっと、ペンをお借りしても問題ないですか」(〈許可伺い〉の意図で)

(11)では、「大丈夫・よろしい」の使用は可能だが、「結構」は容認不可能である。「結構ダ」は話し

⁴ 本稿において、出典が明記されていない例は、すべて蓮沼の作例である。

手における〈許可・許容〉を表すものだが、(11)は聞き手の〈許可〉を求める発話だからである⁵。また(12)では、〈許可伺い〉の意図で「問題ない」は使用しにくい。「問題ない」は「懸念不要」の意味をもち、通常Pが回避すべき事態の場合に使用されるものだからである。こうした後続する評価表現の語彙的意味の相違や待遇上の使い分けの実態の追究は、興味深く重要な研究テーマだが、本稿の主たるテーマからは外れるので、ここでは現象の指摘に留めておく⁶。

3. 4 ②自然・当然

[P(ナク)テモ {オカシク(ハ)ナイ/不思議(デ)ハナイ/無理ハナイ/当然ダ}] のような型をもつ構文で、後続の述語には「自然・当然」という意味をもつ表現が続き、Pを自然・当然の事態と捉える話し手の評価的判断を表す。Pには述語の肯定形・否定形のどちらも使用可能だが、肯定形が使用される例のほうがずっと多い。後続表現のほとんどは、「オカシク(ハ)ナイ/不思議(デ)ハナイ/無理ハナイ」のような否定形をとるが、「当然ダ」のように、肯定形が使用される場合もある(例(16))。(17)は、Pに否定形述語の「ない」が使用された例である。

(13) 救助を待つあいだに火災が起こったらどうする？内側から炎と戦うことになる。おそらく、ここにかんりのあいだ一時間か、数日、あるいはもっと長く一いることになるだろうから、そのあいだに何が起こってもおかしくない。ジェット燃料のことも頭に浮かんだ。私たちがきわめて脆い存在であることはわかっている。本当に、とてつもなく脆いのだ！このようなビル倒壊の現場では、いつ火災が起こってもおかしくない。何キロぶんもの電話線、電線、配水管がぐちゃぐちゃになっているので、気化した燃料がいつ引火するかわからないからだ。

(ダニエル・ペイズナー/リチャード・ピッチョート/春日井晶子(訳)『9月11日の英雄たち：世界貿易センタービルに最後まで残った消防士の手記』2002)

(14) 真弓は目鼻立ちのはっきりした、人並み以上に可愛い女の子だ。そういう犯罪の目標にされても不思議はない。

(七穂美也子『天上の治癒者』2003)

(15) なにしろ、日本橋って、半円形をしてる。こういうの、太鼓橋っていうのかな。すごく傾斜が急だから、下駄や草履では転びそうになっても無理はない。

(風見潤『黒幕をやっつけろ Tokyo 捕物帳』2001)

(16) 「わたしは子供のころ、よくニューヨークの路地を走りまわったものよ。ローラースケートを履いたわたしは凶器だったから、母はよく苦情を受け取っていた。近所でわたしより速く走ったり、わたしよりすごいたずらができる子供はひとりもいなかったわ」「でも、この子たちはあなたのことを知らないのよ。ローラースケートを見たことだってないわ。だから、少しばかりびくびくしてても当然よ」

(ジュード・デヴロー/高橋佳奈子(訳)『心すれちがう夜』2003)

(17) 「まあまあまあ、桜彦坊ちやま…！なんてお似合いなんでしょう！」タマさんが心から楽しそうな声を出し、桜彦は返す言葉もない。…迂闊だった。タマさんはタカラヅカファンなのだ。男装の麗人が大好きなのだから、女装に抵抗がなくても不思議ではない。

⁵ (11)の「結構」は、母語話者にも見られる誤用で、自信がないせいか、最近は「結構」を避け、汎用性のある「大丈夫」を使う人が多い。

⁶ 「いい・よろしい・結構」の意味・機能の相違については、大槻(1999, 2001)が詳しい。

上記の諸例は、「テモ」が「自然・当然」の評価的判断を伴う例であったが、ここで2つばかり疑問を提起しておきたい。その1つ目は、「テモ」が「自然・当然」の意味を表すことが可能なのはなぜかという疑問である。2つ目は、上の例における「自然・当然」の意味は、いかなるメカニズムで生成されているのかという疑問である。というのは、逆接条件の「PテモQ」は、Qが予想・期待と食い違っている場合を表すのがその基本的意味であり、「自然・当然」はむしろそれと正反対の意味を表すものだからである。この問題については、4節で改めて取り上げることにしたい

3. 5 ③無効・甘受

[Pテモ {仕様ガナイ/仕方(ガ)ナイ}]⁷という形の否定的評価表現を伴う構文で使用され、Pという行為が望ましい結果を得るために有効に働かない場合や、Pという否定的状況を甘んじて受け入るしかないといった話し手の諦めの心情を表すものである。「PテモQ」の結果Qが省略され、Pの無効性に対する否定的評価が直接表されるもので、結果としてPの実行・実現の抑制・回避を促す意図を表す表現として定型化したものと考えられる。Pには述語の肯定形が使用される場合がほとんどだが、否定形が使用された例も少数ながら存在する。検索対象外のレジスターで得た例だが、(20)がそうした例で、望ましくない状況であっても、甘んじて受け入れるしかないといった意味を表す。

(18) 計作「駄目だなあ、あんな綺麗な人、泣かしちゃ」 将一「…」 計作「駄目だなあ」
将一「…はい、すみません」 計作「(微笑) 俺に謝ってもしょうがないだろ」 将一「はい」
(岡田恵和『私たちが愛した男』2003)

(19) 「ここにいても、しかたがない。おれは、家に帰るよ。あんたも、帰れよ」
(大下英治『小泉純一郎の「宣戦布告」』2001)

(20) もし、姑が言うように「皇族 c l a s s の (紀子様のような人が嫁に来るはずと姑は言いました) 人」が小舅小姑のパートナーになったのだとしたら、そういう相手を姑が見つめてきたのなら、(私に息子の嫁は自分で探すつもりだったと言いました) 私は、姑に反発し続けてもうしわけなかった、私こそ、この家にふさわしくない、気に入られなくても仕方がない。と諦めるでしょう。
(「Yahoo!ブログ」2008)

ちなみに、「意味がない」は、「仕様がない/仕方がない」と類義的で、③に入れてもよさそうに思われるが、「テハ」構文での使用や、述語否定形への接続の可否といった点で、③の評価表現とは統語的に異なる振る舞いを示すことから、本稿では③には含めないことにした。この問題については4節で改めて解説するが、参考までに1例だけ例文を挙げておく。

(21) 貧困にあえいでいる。この悲しい現実はタイ国だけのものではない。シンガポール、インドネ

⁷ ③「テモ {仕様ガナイ/仕方ガナイ}」とよく似た形式の複合辞に、「テ {仕様ガナイ/仕方ガナイ}」がある。「嬉しくて/喉が渇いてしょうがない」など、感情・感覚が制御できないほど甚だしい様子を表すもので、「モ」1語の有無で、意味・用法に決定的な差異が生じる場合である(後者の意味・用法については、杉村(2007)、鄭ほか(2009)が詳しい)。ちなみに、①肯定評価の「テモイイ」、②「自然・当然」の「テモオカシクナイ」等の構文では、「モ」が省略されても、③に見られるような決定的な意味・用法の相違は生じない。

シア、マレーシア、フィリピンなども同じだ。これらの国々の大衆は日本企業が経営権を持つ合弁会社で、驚くほど安い賃金でこき使われている。まさに奴隷扱いだ。こうした経済侵略に手を貸す者は、すべてわれわれの敵である。とって、一介の日本人従業員に牙を剥いても意味がない。そこで、われわれは政府要人と財界の重鎮をひとりずつ断頭台に立たせることにした。
(南英男『拷問法廷』2001)

3. 6 ④無駄・無益

[Pテモ無駄ダ] という構文で用いられるもので、Pを実行しても期待される結果が得られないことを見越し、その実行・実現を〈不要〉と評価するものである。Pが聞き手の行為の場合は、「スルナ」といった意味の、不実行の〈勧め・指示〉を、話し手自身の行為の場合は、「スルツモリハナイ」といった、不実行の意志表明の表現になる。(22)(23)がそれぞれの例である。

- (22) 時代の現実についてあれこれと西脇氏に問うても無駄だ。氏はつねにその無言の横顔しか見せないであろう。
(飯島耕一『詩と散文』2001)
- (23) 「芹奈、こんな授業聞いても無駄だから、行くよ」呆然として動けない私の腕を、裕香が引張った。
(松岡やよい『いってきます！』)

さて、「無駄ダ」と類義性が感じられる評価表現に「駄目ダ」がある。「無駄ダ」と一見見紛う構文で使用されるもので、次の(24)がその例である。

- (24) きみは、そのうちに、なにかてがかりを残している。指紋なんか、いくらふきとつてもだめだ。
(江戸川乱歩『仮面の恐怖王』2005)

結論から述べると、「駄目ダ」は統語・意味的特徴から見て、「テハ」構文を構成する評価表現に位置づけるのが妥当なもので、「Pテモ駄目ダ」という表現は、「Pテハ駄目ダ」構文と関連づけて分析するのが適切と判断し、本稿では分析の対象外とした。その詳細については、4節で改めて解説する。

3. 7 ⑤非関知

[Pテモ知ラナイ {ヨ/ゾ/ワ}] という構文で使用され、〈警告〉の意図を表す表現として定型化したものである⁸。Pは、大怪我、後悔など、聞き手にとって望ましくない事態を表し、「知ラナイ」は、Pが発生しても自分は関知しないという話し手の突き放した態度を表す。こうして、聞き手にPの発生を事前に避けるよう注意を促す場合の表現である。「よ」「ぞ」「わ」といった終助詞の付加が必要で、それが無い場合は〈警告〉の意図は表しにくい⁹。

⁸ 韓国語にはこの構文とよく似た表現があるが、日本語の「～ても」に相当する‘-어도/-아도’ではなく、順接条件の‘-면’（日本語の「～たら/ば/と」に相当）が使用されるとの指摘がある（河村光雅・李秀貞（2005）『しっかり身につく中級韓国語トレーニングブック』ベレ出版 p.226）。

例：지각하면 난 몰라.（遅刻すればぼくは知らないよ。）【日本語直訳】

日本語では順接条件は使用できず、逆接条件の「テモ/タッテ」を使用しなければならないが、こうした相違の存在は興味深い。

⁹ 「そんなこと言われても知らんわ」のような例では、聞き手の発言に対し自分は関知しないという話し手の〈開

- (25) 「人妻なんかたらし込んでどういうつもりなのよ。亭主に見つかって騒ぎになっても知らないわよ」 (柴田よしき『R-0 amour』2001)
- (26) 「邪魔だ。どけ！」 八木が喚いて、男たちを突き倒した。倒れた男たちが相前後して起き上がり、八木に躍りかかろうとした。「おたくら、大怪我しても知らねえぞ。おれたちは元プロ・ボクサーなんだ」 (南英男『毘道 番犬稼業』2004)
- (27) 「後悔しても、知りませんよ」 (早水しほり『背徳へ誘うくちづけ』2005)
- (28) 「そんな無茶言うて…。あとはどうなっても知らんから」 (由良正『保津の夜明け』2003)

3. 8 ⑥その他

ここに属するのは[Pテモ {始マラナイ/平気ダ}]といった構文で、「逆接条件」と「定型表現」の両面性が認められる構文である。最初に⑥に属する構文と「逆接条件」の違いを指摘しておきたい。(29)は逆接条件の例、(30)(31)は逆接条件と定型表現の連続性を示す例である。

- (29) [2012年もののワインでは若すぎるだろうという客に対し、フレンチ・レストランのワイン担当者が言う]
あのワインは早目にやわらかくなりますので、今飲んでもおいしいんですよ。ご存じないかもしれませんが (テレビドラマ「Heaven? ～ご苦楽レストラン～」第8話 2019年8月放映)
- (30) 「亜矢、之彦さんは浩介と同じお店で働いている人なんだよ。ちゃんと素性の分かっている人だから、警戒しなくても平気だから安心して」「それならいいけど…。もしも、京ちゃんにおかしなことしたら、私とその綺麗な顔をギッタギッタのメタメタにしてあげるんだから覚えておいてちょうだい」 (仙道はるか『永遠に見る夢』2002)
- (31) 農家の作業場のようなひろい庭の奥に二階建ての御殿のような母屋が建っている。別に怪しい様子はないし、庭にまで車を乗り入れるのは失礼だろう。車から降りて、用件を告げるぐらいの礼儀は心得ているが、昨日からの異常な出来事の連続が果林と賢治を気弱にさせていた。「こうしていても始まらないよ」果林はドアを開けて車を降りようとした。
(木谷恭介『館山寺心中殺人事件』2004)

(29)は、P「(若すぎるワインを)今飲んだ」場合は、Q「おいしくない」という順接関係を否定し、(早めにやわらかくなるので) P「今あのワインを飲ん」でも、～Q「おいしい」という逆接条件を表す例である。

一方、(30)(31)は、[Pテモ平気ダ][Pテモ始マラナイ]という構文の型をとり、一定の定型化が見られると同時に、逆接条件としての性質も認められる例である。(30)は「PテモQダカラ平気だ」のQが省略され、文に現れていない結果Qに対する評価を「平気だ」が表す場合で、P「警戒しない」でも、Q「問題は生じない」から、「Qが平気だ」という意味構造をもつ。「平気だ」が隠れた結果Qに対する肯定評価を表し、その結果として「懸念不要」という発話意図を表す表現として一定の定型化が認められるものである。(31)は逆接条件が言語化されているケースで、P「こうしてい」てもQ

き直り)の態度が表されるが、この場合は「知らない」の語彙的意味が強く生きているように感じられる。

「始まらない」という逆接条件を表すが、「始まらない」が消極的評価の意味をもつことにより、Pの不実行（～P）を示唆・提案する表現として、一定の定型化が認められる例である。

(30)(31)は、逆接条件の関係が読み取れる点と定型化が不完全であるという点で、①～④の用法とは区別されるものである。「平気だ」は上述のとおり、隠れた結果Qに対する評価を表すが、これに対し、①-2に属す「警戒しなくても大丈夫だ」は、「警戒しないことが大丈夫だ」という意味であり、「大丈夫だ」は事態Pに対する直接的評価を表す。そしてこの場合、結果Qの存在はほとんど意識されず、〈不必要〉を表す表現として定型化を果たしていると言える。また、(31)の「始まらない」は、その動的事態性により、「PテモQ」という逆接的因果関係が濃厚に読み取れるが、同時に原因Pの無効性に対する否定的評価を表すものである。つまり、(30)(31)は、逆接条件文と評価表現の共存という特徴が見られる点で、定型化が未完成の段階にある「テモ」構文として位置づけることが可能である。この点がこれらを別立てにし、⑥に分類した理由である¹⁰。

4. 考察

この節では、前節で示した「テモ」構文の諸用法に対し、次の5つの観点から分析・考察を加える。すなわち、1)「無効・甘受」用法と「無駄・無益」用法の相違、2)「無駄・無益」用法と「非関知」用法のPに述語の否定形が使用されない理由、3)「自然・当然」用法の意味特性と使用条件、4)「テモ駄目だ」構文の特性、5)「テモ困ル」構文の特性、の5つである。4)と5)は、本稿が考察対象外とした「テモ」構文の周辺にある用法に関するものである。以下ではこの順に考察を行う。

4. 1 「無効・甘受」用法と「無駄・無益」用法の相違

③「無効・甘受」、④「無駄・無益」用法は、どちらも否定的評価表現が後続するものだが、それぞれの統語的振る舞いや発話機能の相違を指摘しておきたい。

まず③「無効・甘受」の用法だが、この用法は、Pの実行・実現が目的の成就や状況の改善に対し無効であることを述べ、Pの〈実現・実行の抑制〉を促す話し手の意図を表す。本稿のタイトルの「くよくよしたってしょうがないよ」を例にとれば、「くよくよしても」聞き手のおかれた状況の改善には結びつかないことを見越し、「くよくよしないようにしろ」と、聞き手を促す発話として機能している。制御可能性の点では、Pには制御可能・不可能のどちらの事態も使用可能である。

また、Pの述語には否定形も使用可能で、望ましくない事態であっても、甘んじてそれを受け入れるしかないといった、〈甘受〉の姿勢を表す。先に挙げた(20)の「気に入られなくても仕方がない」を例にとれば、自分が「気に入られない」という嬉しくない状況も、甘んじて受け入れるしかないといった話し手の諦めの心情を表す。

以上のように、この用法では「諦め」「甘受」といった話し手の消極的・自虐的な心情が表されることが多いが、必ずしもそればかりとは限らず、話し手が好意的であれば、「くよくよしたってしょうがないよ」は、聞き手に対する〈激励〉や〈助言〉としても機能する。また反対に、非好意的であれば「勝手にすればいい」といった〈突き放し〉の姿勢を表すことにもつながる。

¹⁰ ⑤非関知の「Pテモ知ラナイ」は、「PテモQ」の帰結Q「私はそれに関知しない」が明示的に述べられた逆接条件文である。そこから推論で導かれた「Pの発生を回避するよう注意しろ」という帰結が、〈警告〉を表す発話として定型化したものである。Qに使用されるのは、動詞「知る」の非過去・否定形のみである点や、「よ」「ぞ」などの終助詞の後接を必要とする点で、非常に限定された構文でしか使用されない。B)の定型表現に位置づけているのはそのためである。

以上をまとめれば、③「無駄・甘受」の用法は、話し手の消極的・自虐的態度を表すことが多いが、文脈によっては、好意的・積極的な態度を表すことも可能である点で、ニュアンスや機能において可変性に富んだ表現だと言える。

次に④「無駄・無益」の用法だが、この構文のPには、人の意志で行為の制御が可能な意志動詞の肯定形が使用され、否定形は用いられない。この点が③の用法と大きく異なる点である。例えば、③の「仕様/仕方ガナイ」は、「頼んでもしょうがない」「引き受けてくれなくても仕方がない」と言えるのに対し、④の「無駄ダ」は、「頼んでも無駄だ」とは言えるが、「引き受けてくれなくても無駄だ」とは言えない。つまり、Pを実行しても無駄・無益であるとの評価に立ち、その実行が不要であることを述べ、「Pスルナ」「Pシナイヨウニシロ」という表現に近い、〈不実行の指示・勧め〉を表すものである。Pが話し手自身の行為であれば、「こんなことをしていても無駄だからやめる」といった不実行の意志表明を表すことも可能である。

以上をまとめれば、③④の用法は、どちらも「Pしないよう促す」という機能の共通性をもつが、③の「無駄・甘受」は、〈実行・実現の抑制・回避〉や否定的事態の〈甘受〉といった、話し手の受動的・消極的な態度を表すことが多いのに対し、④の「無駄・無益」は、〈不実行の指示・勧め〉や〈不実行の意志表明〉など、能動的・積極的な働きかけを表すという点で、両者の用法は異なる。

4. 2 Pに述語の否定形が使用されない用法とその理由

④「無駄・無益」、⑤「非関知」の用法では、Pに使用される述語は肯定形に限られ、否定形が使用されることはないが、その理由を説明しておきたい。

「無駄・無益」、「非関知」の用法は、それぞれ「Pしても無駄だ」、「Pが発生しても関知しない」という意味を表し、そこから、〈不必要〉〈警告〉という機能を発達させているものである。この2つの用法でPに述語の否定形が使用されない理由は、きわめて単純なものである。すなわち、「不必要」「回避」は、どちらも当該の事態の存在を前提とするものであり、存在しない事態はそもそも実行の不要性を述べたり発生回避の対象となりえないからである。④⑤の用法で、Pの述語に肯定形式のみが使用されるのはそのためである。

4. 3 「自然・当然」用法の意味特性と使用条件

②「自然・当然」用法は、「テモ」が「オカシク(ハ)ナイ・不思議(デ)ハナイ・無理ハナイ・当然ダ」といった「当然」の意味をもつ評価的判断を伴う場合だが、以下では、逆接条件を表す「テモ」が「自然・当然」の用法をもつことが可能な理由、およびその使用条件について考えておきたい。

結論を先取りして述べれば、「自然・当然」を表す「テモ」は、「RナラバPテモ当然」という条件文の構造をもち、Rはほとんどの場合、平均から逸脱した属性をもつ人物や事態を表し、「Rの逸脱的属性に鑑みれば、Pという結果も当然だ」という意味構造の表現で使用されるものである。この点を例に基づき解説しておこう。

(32) このまま大雨が降り続くと、川はいつ氾濫してもおかしくありません。

(32)は、災害発生の危険を警告する天気予報などでよく耳にするものだが、R「平均的レベルをはるかに逸脱した大雨が降り続く現状」に鑑みれば、P「川の氾濫の発生」も不思議ではないという評

価的判断を表すものである。(32)は、Rが現状を、Pが緊急の発生が懸念される未来の事態を表す場合だが、RとPのどちらもが実在する状況を表す場合もある。次の(33)がそうした例である。

(33) [女装した男子に対し感嘆の声をあげたタマという女性について]

タマさんはタカラヅカファンなのだ。男装の麗人が大好きなのだから、女装に抵抗がなくても不思議ではない。

(17)の一部を再掲)

(33)は、R「(タマさんは)男装の麗人が大好き」なのだから、P「女装に抵抗がない」という現状にも納得がいくという関係を表し、RとPはどちらも事実を表す。通常、若い男子の女装姿に年輩の女性は抵抗を感じるものだが、「男装の麗人が大好き」という嗜好をもつタマさんであれば、Pという現状も「不思議ではない」という評価が表されているケースである¹¹。

以上、(32)(33)の例からも明らかなように、「自然・当然」用法の「テモ」は、「通常ならば意外と評価されるPも、平均から逸脱した属性を有するRが原因であれば、それも当然である」という、やや曲折した論理に基づき使用されている。そしてこの用法は、一般通念に対し、通常とは異なる状況で成立する別の一般通念を呼び出すことにより成立していると考えられる。すなわち、「特殊な原因を考えれば意外な結果も当然だ」といったもので、別の一般通念により、意外性が解消されるような場合に成立する「テモ」の用法として説明可能である¹²。

さて、ここで「テハ」と「テモ」が組み合わさって用いられ、「自然・当然」の意味を表す例を観察しておきたい。次の(34)(35)がそうした例で、「RテハP{ノモ/テモ}当然ダ」といった条件文において、結果のPを「自然・当然」として評価するような場合の用法である。上で観察した②と同様の意味構造をもつもので、「テハ」「テモ」が使用される文脈や発想の同質性を示唆するものである。なお、(34)では、「なさらないのも」が使用されているが、事態の事実性やニュアンスの違いを捨象すれば、「テモ」での言い換えも可能という判断に立ち、以下での説明を進める（「テモ」で言い換えた部分を片仮名表記で示す）。

(34) こんなにお若くちや、まだ結婚{なさらないのも/ナサラナクテモ}一向不思議はないですな。

(谷崎潤一郎『細雪(上)』)

(35) これほどの陽気が続いては、3月中に桜が満開になつてもおかしくないだろう。

(34)(35)は、「RテハP」が否定的評価を伴わない条件関係¹³を表すが、事態の事実性に関してみる

¹¹ なお、「自然・当然」用法の「テモ」は、Rが通常の事態を表し、結果Pが意外性を表す用法もある。すなわち、「RナラバPテモ当然ナノニ、～P」のような構造をもち、通常成立する「RナラバP」に対し、予想と食い違う「～P」という現実を意外と捉える用法で、以下がそうした例である。

例：50歳を過ぎれば孫がいてもおかしくないのに、5歳も年下の男と同居生活を続けている。

すなわち、R「人は50歳を過ぎれば」P「孫もできて落ち着いた生活を送るのが普通」なのに、～P「5歳も年下の男と同居している」という、常識から逸脱した人物の行動に対する「驚き・あきれ」を表す例である。

¹² 定延(1995)の「モ」の用法分類の1つに「当たり前のモ」がある。「1日1食なら腹も減るだろう」において「も」が表す意味特性を指しているが、「特殊な条件ではそれも当然」という意味を表す点で、「自然・当然」の「テモ」との平行性が観察され興味深い。

¹³ 「RテハP」が否定的評価を伴わない例について、蓮沼(1987)では、前件Rの「極端な性質」に由来する「意外性」という意味特性から説明している。これに対し、有田(1999)は「尋常ではない事態」と「対比される通常の状況、事態」との対比から生じる意味特性として説明している。

と、(34)はRもPも事実、(35)は、Rが事実でPが仮説を表すという違いがある。そして「意外な結果も原因の特殊性を考えれば当然」という意味が「テハ」「テモ」の両方によって表されている場合である。「テハ」と「テモ」は、述語の「テ」形を「ハ」「モ」が取り立て、対比と並立という対照的な意味を表すが、その2形式が組み合わさり、全体として「自然・当然」の構文を構成しているという事実は、日本語の条件文の体系を考える上で、非常に示唆的である¹⁴。

4. 4 「テモ駄目だ」構文の特性

ここで、「テモ駄目だ」を本稿の分析対象から除外した理由を説明しておきたい。

その第1の理由は、「駄目だ」は「テハ」構文での使用が主流である点である。例えば「テハ」は「体を(動かし/動かさなく)ては駄目だ」のような、〈禁止〉〈必要性〉を表す用法をもつが、「仕様ガナイ」「無駄ダ」などは、「テハ」や述語の否定形とは共起しにくく、もっぱら「テモ」構文で使用されるという直観が筆者にはあるからである。

こうした直観を検証するために、本稿では、「テモ」「テハ」と「無駄」「駄目」等の評価表現の共起状況の調査を実施した。その方法は、BCCWJの全データを対象に「テモ」「テハ」に続く評価表現を語彙素によって検索し、「テモ」「テハ」と各評価表現が共起する割合を計算した。以下の表2がその結果である。(a)～(d)列の最下段の数値は、「テモ」「テハ」と共起した各評価表現の出現総数で、その右側の%は「テモ」「テハ」との共起数が出現総数に占める割合を示す。「ナクテモ」「ナクテハ」は述語の否定形が使用された場合を表すが、形容詞の「ない」もここに含めている。

表2 「テモ」「テハ」と評価表現の共起状況¹⁵

	後続表現 前接形式	(a)		(b)		(c)		(d)	
		無駄	%	仕方(ガ)ナイ/ 仕様ガナイ	%	意味ガナイ	%	駄目	%
テモ 構文	テモ	362	100	734	97	224	82	429	52
	ナクテモ	0	0	9	1	1	0	1	0
	小計	362	100	743	98	225	82	430	52
テハ 構文	テハ	0	0	13	2	27	10	341	41
	ナクテハ	0	0	3	0	22	8	60	7
	小計	0	0	16	2	49	18	401	48
	合計	362	100	759	100	274	100	831	100

表2を見ると、(a)～(c)列と(d)列の間に著しい分布の相違が観察される。(a)(b)では、そのほとん

¹⁴ (34)は1930～40年代初頭の大阪を舞台にした谷崎潤一郎(1886-1965)の小説の例、(35)は筆者の作例だが、BCCWJの用例をざっと観察した限りでは、「RテハPテモ～」の例は見当たらず、Rの後に使用されている順接形式は、条件の「タラ・バ・ト」、理由の「カラ・ノデ・ノダカラ」等である。順接条件の「テハ」は、「老いては子に従え」が示すように、古風なニュアンスがあり、最近の日本語ではほとんど使用されなくなっているのかもしれない。

¹⁵ 表の(a)(b)(d)欄の「無駄」「仕方」「仕様」「駄目」は、それぞれ「無駄・むだ・ムダ」「仕方・しかた」「仕様・しょう・しょう」「駄目・だめ・ダメ」という異なる表記の例を含む。(c)「意味ガナイ」は、本稿の「テモ」構文の用法分類の対象外にしているが、(a)(b)との分布の違いを示す目的で、その調査結果を追加した。

どが「テモ構文」で使用され、「テハ構文」ではわずかにしか使用されていない。また述語の否定形もほとんど使用されていない。一方、(d)「駄目」は、「テモ」「テハ」構文のどちらでも、ほぼ同率の割合で使用され、「ナクテハ」の形も約7%使用されている。(c)「意味ガナイ」は、(a)(b)に近い分布パターンを示すが、その約82%が「テモ構文」、約18%が「テハ構文」で使用されている点や、「ナクテハ」の形も約8%使用されている点で、やや(d)寄りの性質も観察される。意味的には(b)の「仕方(ガ)ナイ・仕様ガナイ」に近いが、統語的にはやや異なる振る舞いを示すため、(b)とは別扱いしたが、その詳しい位置づけについては今後の検討課題としたい。

さて、ここで(d)「駄目」について、若干の補足説明を行っておきたい。「駄目」はくだけた口語表現で使用される傾向が強いことを考慮し、「テモ」「テハ」の口語的変種である「タッテ」「チャ」との共起状況についても、BCCWJの全データを対象に調査を試みた。その結果「タッテ駄目」33例、「ナクタッテ駄目」0例、「チャ駄目」649例、「ナクチャ駄目」51例の使用が確認された。「タッテ駄目」の合計33例、「チャ/ナクチャ駄目」の合計700例を、表2の「テモ構文」「テハ構文」それぞれの小計に加え、「駄目」の総用例数に占める割合を再計算したところ、それぞれ463例/1564例、1101例/1564例となり、「駄目」の約30%が「テモ構文」、約70%が「テハ構文」で使用されていることが判明した。

「駄目」以外の(a)～(c)の表現は、「タッテ」「チャ」の例を加えても、その共起傾向の大勢は表2の結果と変わらない(1～2%程度の差)のに対し、「駄目」の場合は、「テモ」「テハ」との共起比率が30%対70%となり、表2の割合を大きく逆転する結果となった。以上を総合すると、「駄目」の用法の主流は「テハ構文」の方にあると言える。これが「テモ駄目ダ」を本稿の考察の対象から外した理由である。

4. 5 「テモ困ル」構文の特性

最後に、「テモ」が順接条件の「たら・と」と互換性をもつ「テモ困ル」構文について考えておきたい。次の(36)がそうした例である。

- (36) 「この後の“ガッツポーズ同好会”の講演の方も、この調子でお願いしますよ」「え…何?」「だから“ガッツポーズ同好会”のための講演ですよ。よろしくお願いしますね」「何が?そんな話、聞いてないぞ」「え?だって先程、後で同好会の方でもお話いただくと…」「いや、様子を見るだけだよ。見るだけ」「一言で結構です。一言だけ。お願いします」佐々木学生委員はそう言って、私の背後に回り、強引に背中を押して歩き出そうとするのだった。「ちょっと君、ねえ!勝手にそんなこと言われても困るよ。ぼくはしゃべらないよ!様子を見にいかって言っただけなんだからね」私は歩きながら背後の佐々木君に、強く抗議した。

(原田宗典『見たことも聞いたこともない』2003)

(36)の下線部の「ても」は、以下の例が示すように、順接条件の「たら・と」との互換性が認められる¹⁶。

¹⁶ 「バ」は、後件に否定的評価事態をとりにくいという制約があり、(37b)では使用されにくい。実際、コーパスの用例を検索しても、「ば困る」のヒット数は、「たら困る」「と困る」それぞれの3分の1前後にとどまり、そのほとんどは述語の否定形に後接し、〈必要性〉を表す表現で使用されるものである(例「我慢してもらわなければ困る」)。また、「動詞受け身形+テモ困ル」(「困ル」は非過去・肯定形)という形をとる条件文はBCCWJ全体で

- (37) a 勝手にそんなこと言われても困るよ。
b 勝手にそんなこと {言われたら/言われると} 困るよ。

(37a) (37b)における「ても」と「たら・と」の互換性だが、それぞれはどのような意味的相違を持ち、また、その互換性はどのような要因によって成立しているのだろうか。

結論を先取りして述べれば、本稿では(37 a)の「Pテモ困ル」は、逆接条件ではなく、順接条件が並列された「並列条件」(前田 1993)の2番目の文と捉えることにしたい。すなわち、「P1ナラバQ。P2テモQ」という形で、順接条件が並列された場合の後半の文と考えるわけである。ここでの「テモ」は、「そんなことを言われる」こと以外にも「困る」結果をもたらす原因があることを暗示的に述べるもので、「不都合なことを言われれば人は困る」といった一般通念を背後に暗示しつつ、それゆえ「あなたの勝手な発言を聞いても私は困る」ということを述べている文だと考えられる¹⁷。

(37a)と(37b)には、微妙ではあるものの、話し手の表現意図にも違いが認められる。「たら・と」が使用された(37b)では、聞き手の「勝手な発言」を取り立て、そのみが原因で自分が「困る」こと述べ、「勝手な発言はしないでほしい」という非難の意図が感じ取れるのに対し、「ても」が使用された(37a)は、他にも困る原因があることを暗示し、「できれば勝手な発言は避けてほしい」と、婉曲に行動の抑制を求める話し手の意図が感じ取れるのである¹⁸。自分にとって望ましくない状況をもたらした原因に、一般通念や複数の並列的事態の存在を暗示することにより、その責任を聞き手1人に課すというニュアンスを避け、非難の感情を婉曲に伝えようとする待遇的配慮に基づき慣用化が進んだ「テモ」の用法として捉えることが可能ではないかと考える¹⁹。

ちなみに、(37a) (37b)の前件は、どちらも事実を表す場合と捉えることが可能だが、微妙ながら事実性の内実に差異が認められる。すなわち(37)は、前件が「事実」、後件が「仮説」を表す「事実的な仮説条件文」(前田 2009:46)に該当する例だが、「たら・と」が使用された(37b)では、「そんなこと言われた場合は当然困る」という一般条件の関係が前面に打ち出されるのに対し、「ても」が使用された(37a)は、そうした一般条件を背後に暗示する一方で、対話の現場で話し手が経験している事態、すなわち聞き手の「勝手な発言」が話し手の困惑の引き金になっているという事実を述べているというニュアンスがある。つまり、対話場面での実体験という「現然」性 (cf. 松下 (1928)「現然假定」)

146例出現していたが、そのうちの52例が「言われても」が使用された例である。これは全体の約36%を占める数値であり、「言われても困る」は、好まれて使用される構文として、一定の慣用化が進行していることが窺える。

¹⁷ 有田 (2011) は、前田 (2009) の書評論文だが、その中で「テモ困ル」型の文に対する前田の説明を批判し、(37a) (37b)のような文は、それぞれ「譲歩文」「条件文」(＝順接条件文)の関係として捉えるべきだとしている。本稿は、(37a)を順接条件の並列と捉える点で、有田の立場とは異なる。

¹⁸ 同様の相違は「テハ」と「テモ」の間にも観察される。例えば「手術しては駄目だ」は手術の(禁止)を表すが、「手術しても駄目だ」は、他の医療的処置も有効でないが「手術という方法も有効でない」ことを述べる文である。この場合は、医療的処置の難易度というスケール含意が想起されるため、「何をしてでも駄目だ」という全面否定に傾いた意味が表されるが、これは前田 (1993) が「究極の並列条件」と呼ぶ、「テモ」のもつ「非条件性」という意味特性から生じるものである。「駄目だ」という同一の評価表現を伴う場合であっても、「テハ」と「テモ」では、全く異なる発話意図が表されることを示す、非常に興味深い例である。

¹⁹ (37a)の「ても」は、「柔らげ」の「も」(沼田 1986)と関連づけて説明可能ではないかと思われる(沼田の「も」の用法分類には変遷があり、沼田 (1986:156)では、「も₁:単純他者肯定」、「も₂:意外」、「も₃:柔らげ」の3種が立てられていたが、沼田 (2009)では、「も₁:累加」「も₂:意外」の2種にまとめられ、「柔らげ」の「も₃」は、「も₁」の「不定用法」に組み入れられ、その独立した用法は解消されている)。なお、「モ」の研究史や用法・意味の派生の詳細については、井島 (2005a, 2005b) が詳しい。

の意味が、「ても」では「たら・と」よりも相対的に強く表出されていることが感じ取れるのである。ただし、これは印象の範囲に留まるものであり、こうした理解の妥当性については、条件表現の歴史的变化や方言差、音調なども考慮に入れ、さらなる検討が必要である²⁰。

5. まとめ

最後に、「テモ」と「タッテ」の相違の存在を示唆する例を挙げ、今後、取り組むべき課題を掲げておきたい。

「タッテ」は「テモ」のくだけた口語体の語で、ほとんどの場合、相互に置き換えが可能だとされるが、疑問文には使用できないという大きな相違もある（例「座っ{ても/*たって}いいですか」）。また、判断が非常に微妙になるケースだが、次の(38)のように、希望が実現できなかったことを話し手が後悔するような文脈では、「テモ」の代わりに「タッテ」は使用しにくく感じられる（「タッテ」で言い換えた箇所を片仮名表記で示す）。

(38) [「子がかすがい」と言われるから、かすがいなしで、どこまでやれるかやってみようという気持ちがあった。また、忙しすぎて、子育て・家庭と仕事の両方はできないという気持ちもあったという吉永小百合の発言を受け]

橋田：わたしは、子がかすがいとは考えませんがね。

吉永：だけど今は、{いても/??イタッテ} よかったかな、って思ってます。

（吉永小百合/橋田壽賀子『橋田寿賀子と素敵な24人』1989）

今後の課題は、上記のような例における「タッテ」の容認度の検討や、接続助詞・取り立て助詞の用法をもつ類義表現の「デモ」「ダッテ」「モ」の意味・機能の比較や、その体系の解明である。また、「無駄ダ」「駄目ダ」は、「テモ」「テハ」との共起の可否や機能において著しい相違が観察される。このように個々の評価表現の語彙的意味の違いが、それが使用された「テモ」構文の意味・機能を分ける重要な要因として働いており、本稿で提示した用法分類に対しても、さらなる精査の必要性を示唆している。引き続き、こうした課題のひとつひとつに丁寧に取り組み、研究の深化を目指したい。

参考文献

- 有田節子（1999）「テハ構文の二つの解釈について」『国語学』199: 41-55
- 有田節子（2011）[書評論文] 前田直子著『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』『日本語文法』11(2): 128-136 日本語文法学会
- 井島正博（2005a）「モの機能と構造 上」『武蔵大学人文学会雑誌』36(3): 137-162
- 井島正博（2005b）「モの機能と構造」『成蹊大学文学部紀要』40: 31-60
- 大槻美智子（1999）『『よろしい（よい）』と『結構』—評価の質と待遇性—』井出至先生古稀記念会（編）『国語国文学藻 井出至先生古稀記念論文集』18-40 和泉書院
- 大槻美智子（2001）「応答詞『いい・よろしい・結構』の意味論と語用論」『大谷女子大國文』31: 1-22

²⁰ 鈴木（2015）は、前田（2009）の「事実的な仮説条件文」に該当する条件文を「事実的条件文」と呼び、それが使用される理由を5点に分けて説明している。その中の「①一般的関係として発言する」という特性は、(37a)の「テモ」にも認められる特徴で、示唆的である。

- グループ・ジャマシイ (編著) (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版
- 三枝令子 (2011) 「感情を表す動詞『困る』が示すテンス・アスペクト」『一橋大学国際教育センター紀要』 2: 13-22
- 定延利之 (1995) 「心的プロセスからみた取り立て詞モ・デモ」 益岡隆志・野田尚史・沼田善子 (編) 『日本語の主題と取り立て』 227-260 くろしお出版
- 杉村 泰 (2007) 『『～てならない』、『～てたまらない』、『～てしかたがない』の使い分け—日本語母語話者と日本語学習者の比較—』『世界の日本語教育』 17:1-15 国際交流基金
- 鈴木義和 (2015) 「事実的条件文について」『神戸大学文学部紀要』 42: 27-46
- 高梨信乃 (1995) 「シテモイイとシテイイ」 宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法 (上)』 くろしお出版
- 高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ 現代日本語における記述的研究』 くろしお出版
- 鄭 惠先・小池真理・船橋瑞貴 (2009) 『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に見られる「～てならない」「～てたまらない」「～てしかたない」「～てしようがない」の使い分け：日本語学習者に対する指導への応用』『北海道大学留学生センター紀要』 13: 4-21
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (2010) 『新装版 どんなときどう使う 日本語表現文型辞典』 アルク
- 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法 4 第 8 部 モダリティ』 くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (編) (2008) 『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』 くろしお出版
- 沼田善子 (1986) 「第 2 章 とりたて詞」 奥津敬一郎・沼田善子・杉本武『いわゆる日本語助詞の研究』 105-225 凡人社
- 沼田善子 (2009) 『現代日本語とりたて詞の研究』 ひつじ書房
- 蓮沼昭子 (1987) 「条件文における日常的推論—『テハ』と『バ』の選択要因をめぐって—」『国語学』 150: 1-14
- 蓮沼昭子 (2003) 「取り立て詞『だって』について—『も』『でも』との比較を通して—」『姫路獨協大学外国語学部紀要』 16: 251-268
- 蓮沼昭子 (2017) 「順接と逆接の境界—日本語学習者は逆接条件の『テモ』になぜ順接条件形式を使用するのか—」 江田すみれ・堀恵子 (編) 『習ったはずなのに使えない文法』 119-146 くろしお出版
- 藤井聖子 (2002) 「所謂『逆条件』のカテゴリー化をめぐって—日本語と英語の分析から—」 生越直樹 (編) 『対照言語学』 (シリーズ言語科学 4) 249-280 東京大学出版会
- 前田直子 (1993) 「逆接条件文『～テモ』をめぐって」 益岡隆志 (編) 『日本語の条件表現』 149-167 くろしお出版
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究—』 くろしお出版
- 松下大三郎 (1928) 『改撰標準日本文法』 紀元社
- 松下大三郎 (1930) 『改撰標準日本文法 (訂正版)』 中文館書店 (本稿では、勉誠社より復刊された同書「訂正再版」(1978)を参照した)
- 森田良行・松木正恵 (1989) 『日本語表現文型 用例中心複合辞の意味と用法』 アルク

調査資料・用例出典

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス 通常版」(BCCWJ - NT)

〈<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>〉